

令和7年度入学
宮城大学大学院事業構想学研究科（博士前期課程）
特別選抜＜社会人＞
論述専門科目

【出題意図】

事業構想に関する研究を行うに当たって求められる、資料の読解能力、要約能力、根拠に基づく論理的な思考能力について問う。また、参考文献を自らの研究に応用、展開する能力について問う。

問1 本文の内容を600字程度で要約しなさい。

【解答例】

イノベーションには、漸進的イノベーションと融合のイノベーションがある。融合のイノベーションは進化の過程と似ており、有性生殖が新たな遺伝子を生むように、異分野の組み合わせが革新を生む。過去の偉大な発明や学術研究も、多様な分野の知識が融合して生まれており、近年、科学・技術・産業において融合型のイノベーションが主流になっている。

科学論文の分析では、大きな影響を与えた研究は「異分野の組み合わせ」によるものが多かった。特許も、かつては単一分野が中心だったが、現在は複数の技術を組み合わせたものが大半を占めている。

多くの人は「イノベーションは特定の才能がある人だけのもの」と誤解し、可能性に背を向けてしまう。しかし、イノベーションは個人の才能よりもネットワークと情報共有によって生まれる。ここで重要なのがアイデアの共有である。アイデアは物理的な資源とは異なり、共有すればするほど価値が増す。ノーベル賞受賞者ポール・ローマーは「アイデアは新たなアイデアを生む」と指摘しており、より創造的な社会を作るには、異なる分野の人々が交流し、アイデアを交わす環境が不可欠と言える。

現代のイノベーションは、「異なるアイデアの融合」によって生まれ、情報共有とネットワークがその鍵を握っている。個人の創造性だけでなく、多様性のある環境をつくり、新たな組み合わせを生み出すことが、変化を受け入れ、革新を起こす力になる。(594字)

問2 あなたが本学大学院で取り組もうとしている研究と学びについて具体的に述べ、著者の主張をもとに、イノベーションとの関係について考察しなさい。

【解答のポイント】

イノベーションには主に「漸進的イノベーション」と「融合のイノベーション」の2つの種類があるとする著者の主張を踏まえて、受験者が取り組もうとしている研究とどちらかのイノベーションとの関係、あるいは両方のイノベーションとの関係について適切な考察がなされているか。